

新

シン
 あたらしい・
 あらた・にい

新
 新
 新

辛しんと木きと斤きんとを組くみ合あわせた形かたち。辛しんは入いれ墨ずみ用ようのどつ手てのついた大おおきな針はり。斤きんは木きを切きる時ときの斧おの。死し者しやの名な前まえを書かいた木きの札ふだ(いはい)を作つくるたためための木きを選えらぶ時とき、針はりを投なげて当あたった木きを斧おので切きった。そのことことを新しんといい、木きを新あたららしく切きり出だすことことで、「あたらしい、はじめ」の意い味みとななった。